

幼保小連携・接続モデル実施園公開研修会 報告書【ひまわり幼稚園】

日 時 : 平成 31 年 2 月 19 日 (火) 10:00~12:30

場 所 : ひまわり幼稚園



参加者数

種別	園(校)数	参加人数
私立幼稚園(認定こども園)	13	15
公立幼稚園(認定こども園)	2	2
民間保育園(認定こども園)	10	10
公立保育所(認定こども園)	12	13
小学校	2	2
その他(大学・千葉県など)	3	4
合計	42	46



千葉市の幼保小連携・接続の取組(千葉市幼保支援課)

資料に基づき、千葉市幼保支援課から説明



モデル実施園の取組成果発表(ひまわり幼稚園)

■年長担任から保育について説明

- モデル園に選定されたことから、アプローチカリキュラムの作成に取組むことで、当園が実施している保育を見つめ直し、伝承されてきたものを月案に落とし込むことで可視化された。
- 幼稚園は行事が多く、今までは準備に多くの時間を割いていたが、保育を見直す中で子どもたちに向き合っているか？と職員間で問題意識を持つようになった。子どもたちが主体的になれるように、子ども同士で話し合いをしながら役割分担ができるように、保育者は環境設定を考えるようになった。
- 室内で実施した「かるた遊び」は、子どもたちが幼稚園の思い出として作成した「かるた」で遊んでいる。表面に絵を、裏面に子どもたちが考えた文章が書いてある。文章を書くことは個人差があるが、子どもたちで話し合い、協力しながら作成している。
- 園庭での保育も、子どもたちが話し合うようにしている。園庭でのドロケイ遊びでは、子どもたちに園庭の使用範囲を促したところ、子どもたちから遊具が出ていることを危ないと意見が出てきたので片付けをするように保育展開を実施。泥棒と警察の役割分担も、子どもたちで決めるようにしたうえで、人数の偏りがある際は保育者から声掛けをし、子どもたちで話し合っ決めていく。普段の保育でルールを決める際も、黒板に板書することでみんなで決めたルールの可視化するようにしている。

■主任から取組について発表

<園の特徴>

- 本園は創立 65 年の歴史と伝統を大切に、笑顔あふれる幼稚園。卒園児は 5,500 名を超える。一クラス 20 人規模で小規模にすることで、一人一人に寄り添った関わりができていく。
- 本園の特色として、生活のなかに漢字を取り入れ、集中力、聴く力、正しい姿勢などを養っているほか、ミサトっ子草履により土踏まずを鍛える健康づくりをしている。漢字教育は、漢字を書くこと、小学校教育の先取り

が目的ではない。漢字を通して集中力を高めることに取り組んでいる。漢字は、子どもたちは何を書くのかな？と意識を高めることで、聴く＋見るでより深く話の内容をインプットできる。

<アプローチカリキュラムの作成>

○以前の月案は、行事を中心とした実施することを書くだけの簡単なつくりで、保育内容は伝承、口頭で実施していた。

○千葉市が作成した「千葉市版アプローチカリキュラム作成の手引き」を参考に、本園の保育を見つめ直し、10の姿のどこに当てはめるかを考えながら月案の見直しを実施。

○細かく書くといくらでもかけてしまい、ポイントがわかりにくくなることから、10の姿や保育のねらいに合致した内容、精選化、焦点化することを心掛けるとともに、小学校接続へのアプローチポイントと考えられるものに記号を付けた。

○前月末のこどもの姿から、年間計画や月のねらいを踏まえて活動内容や環境構成を考え、子どもの予想される姿を考えた。特に年長児は10の姿のどの部分に当てはまるかを考えた。

○ACは作成して終わりではなく、実際に活用できる生きた指導計画とするため、常に振り返りを実施。具体的には変更や訂正は青ペンで、今後の改善点は赤ペンで、反省点は黒ペンで書くことで、気が付いた時にすぐに振り返り、反省ができるようになった。

○振り返り方法が保育者によってばらばらであったため、共通にするため話し合いをし、前月の反省をもとに修正すること、予想されるこどもの姿は、予想通りであれば丸をし、予想する姿に達しなかったり、逆に期待以上だったりした時は、保育者の援助、環境設定が適切であったか振り返りをするようにした。特に、「できた」「できなかった」のように技術的な評価ではなく、子どもたちの意欲や心情がどう高まっているか、子どもの姿、気づきをとらえるようにしている。

○本園の子どもたちの特徴として、与えられたことはしっかりできる反面、保育者の指示待ちである事から、自分で考えることが苦手な部分があり、保育者も、行事に追われ、子どもたちにじっくり話をきく余裕がなかったことから、子どもたちが自身の思いを発信できる機会が少なく、保育者がすぐに援助、指示をしてしまう傾向があった。このような課題を把握できたことから、子どもたちで話し合いができるような環境設定をし、子どもたちに選択権、決定権を委ねるようにすることで、保育者発にならないように工夫をした。その結果、子どもたちで話会う時間が増えたことで、協力して行動する場面が増えたほか、保育者の指示が無くても自発的に行動する場面が増えた。

○学期末のアンケートではわかったが、年長の保護者のみならず、他学年の保護者からも子どもたちの頑張り、協力をしている姿が見られたと好意的な意見を頂いた。

○ACをもとに保育者は子どもたちが主体的に決定できるように話し合う機会を設けてきたが、話し合いが活発になりまとまらないことが増えてきたが、コーディネーターの砂上先生からの助言で、話し合うねらいは何かを考え、まずは話したいという意欲を引き出したいことから、話し合う際のルールを子どもたちと考え、聴く側の姿勢も整える他、保育者は完成度を高く求めることから取り組みに対する姿勢を重視するように考えを変更し、完成度を高めるために費やしていた時間を、話し合いにする時間に回すように意識改善を行った。

○現在のこどもの姿としては、物事を自分の問題として捉え、友達と協力しながら意見を出したり、助け合ったりしながら問題解決していこうとする態度が見られるようになった。また、クラス全体の士気が高まり、支援が必要な子へも保育者の助けが無くても子どもたち同士で助ける姿が見られるようになった。

○ACの見直しは、口伝や記憶で実施してきた保育を変更した為、かなりの労力、時間を要したが、保育者は10の姿を意識した保育を実施したり、可視化したことにより教員間で共有、理解が高まったりと今までの保育を見つめなおす良い機会となった。

<就学へ向けた取組>

- 平成 30 年度の年長児 37 名は 16 の小学校へ就学する。11 月に実施される就学児検診を機会に就学の意欲が高まることから、就学先 16 校の写真を学校のホームページ等から印刷して掲示した。子ども同士で話し合う姿も見られたことから、就学先ごとに園児の名前を掲示し、自由に書き込めるようにしたところ、子どもたちで気づいたことを話し合う姿が見られた。
- 松ヶ丘小学校との交流として、7 月に校長先生以下教務主任、1, 2 年生の担任を幼稚園へ招いて、幼稚園のAC、小学校のスタートカリキュラムの相互理解や、交流会の日程、連絡調整担当者の設定、小学校の願いや要望等の意見交換会を実施した。
- 11 月に園児を連れて小学校の校庭を見学。幼稚園にない様々な遊具を使用させて遊んだり、卒園児から 12 月の交流会招待状を渡してもらったりと様々な経験をさせていただいた。子どもたちからは、次は校舎内を見学したい、幼稚園にない遊具があった、校舎や校庭が大きかった等と話が出るなど、小学校への意識が高まった。出てきた意見は保育室に掲示するとともに、園長から校長にお伝えした。
- 小学校で気づいたことを子どもたちで話し合った際、小学校を参考にして、意見があれば挙手する、指名されたら「はい」と言ってから意見を述べる、発表者以外は同じ意見の時は「同じです」というルールを決めた。後日、コーディネーターの砂上先生から小学校のスタイルを取り入れなくてもよいと助言を受け、早期小学校化になりかねないと考えて辞めた。
- 12 月に 1 年生との交流会を実施。授業の様子を参観したり、なかよしになる会で一年生から歌を聞かせてもらったりした。振り返りとして、小学校見学の様子の写真を見ながら自分自身で考えたこと、楽しかったことなどを発表したり、掲示物に自分が思ったことを貼ったりすることで、子ども同士で話し合う姿や文字を書く姿、書き方がわからない友人に対してフォローしあう姿が見られた。特に、字を書くことについて、正しくかけなくてもよいことをコーディネーターの砂上先生から助言をいただき、書くことが子どもにとって楽しい活動になるようにした。
- 1 月に 12 月の交流会のお礼メッセージを渡すとともに、業間休みの様子見学に行った。このように、ちょっと見に行く機会を設けることで、様々な小学校の様子を知る事や、経験の積み重ねにつながり、就学の不安軽減や期待の向上につながっている。
- 保護者への周知として、園のホームページや園便りに掲載するほか、行事の際に小学校コーナーを展示したり、個別支援の際には会議を開催している旨の掲示をすることで、取り組みを周知している。

<まとめ・課題>

- 幼保小の円滑な接続は、小学生になっても困らないようにと小学校化することではない。
- 子どもたち自身が興味・関心をもち、自分自身の問題として物事に取り組みができるような活動を保育者がねらいをもって環境設定すること。
- 子どもたちの意見、つぶやきを聞き取り、タイミングを逃さずに活動に生かしながら、幼児期の今でしか経験できないことをしていくことが大事。
- ACの振り返りを習慣づけ、保育者の配慮や援助について見直しを進めていくことで、現状に即したものになっていく。今後は他学年の職員にも共通理解として広げ、より良い保育が提供できるようにしていきたい。

近隣小学校からのお話(松ヶ丘小学校 横山校長先生)

- ひまわり幼稚園の教育を見て、小学校でも参考になるものが多数あった。研修に参加された皆さんの園でもできることがあると思うので、出来るものから取り入れてほしい。
- 幼保小の接続はとても重要であり、特に職員間の相互理解が重要と考える。ACはそのツールとなっている。
- ACの活用、10 の姿を踏まえた幼稚園のPDCAサイクル、職員間の共通理解等、参考になる話が沢山聞

けたので有意義だった。

○スタートカリキュラムは、45分一コマに、複数の科目を入れ、小学校になれてもらえるように工夫している。1年生の担任であれば当たり前のことだが、全学年でみるとなかなか周知されていないのが実情であり、私も1年生を担当したことが無かったので知らなかった。

○皆様方をお願いしたいのは、ぜひ何度も小学校へ来てほしい。生活科の交流会は何度もできないが、校庭見学や授業見学は双方の負担なく気軽にできる。何回も来ることで、様々な場所を見ることができし、経験の積み重ねになる。就学にあたっては、困った時に困ったと言えたり、身の回りの整理整頓ができると良いと思う。

カリキュラムコーディネーターからのお話(千葉大学教育学部 教授 砂上史子先生)

○私立幼稚園は特色ある教育を提供している。ひまわり幼稚園は伝統ある保育を提供している中で、今回AC作成に伴い自らの保育を見つめ直した。とても勇気のある事だと思う。

○各園でまず課題を把握してほしい。ひまわり幼稚園は、自らの保育を見つめ直し、記憶や伝承であった保育を可視化することで課題を把握しやすくなり、手だてが具体的になった。また、保護者への取り組みを周知したことにより協力体制ができた。

○ACを取り入れる際には、今までの書式を見直してほしい。千葉市版AC作成の手引きでも述べているが、良い点として新たに作るのではなく、現在の各園で使用している月案を見直すことである。ひまわり幼稚園は、手書きで、随時、反省や振り返りを書き込める形式にしたことで、日々の保育での振り返りや積み重ねが園内全体で共有化されている。

○小学校との連携については、千葉市は政令市としての地域柄だとは思いますが、ひまわり幼稚園も複数の小学校へ就学している。各園で複数の小学校との連携は現実的ではないと思うので、近隣の小学校とこまめに交流することが大事である。今回の発表内容でもった小学校コーナーは他園でもヒントになると思う。

○本発表を受けて、各園がひまわり幼稚園方式を実施するものではない。各園で出来ることを工夫して取り入れてほしい。

《アンケート結果》

1 参加者情報(アンケート記入者)

私立幼稚園 (認定こども園)	民間保育園 (認定こども園)	公立保育所 (認定こども園)	小学校	その他	合計
13	7	12	1	6	39

2 公開研修会の内容について

- ①大変参考になった ②参考になった ③あまり参考にならなかった ④参考にならなかった ⑤どちらともいえない
⑥未記入

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
千葉市の幼保小連携・接続の取組み	20	13	1	2	3	0	39
モデル実施園の取組成果発表	26	8	1	0	4	2	39
近隣小学校からのお話	20	10	2	1	4	2	39
カリキュラムコーディネーターからのお話	22	8	1	1	3	4	39

3 公開研修会全体について(理解の深度)

①そう思う ②まあそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤未記入

	①	②	③	④	⑤	合計
幼保小連携・接続への理解	32	6	1	0	0	39
取組みにおける理解	27	12	0	0	0	39
カリキュラム作成・見直しの参考	32	6	0	0	1	39

4 最も印象に残った内容／カリキュラム作成・見直しにあたり参考になった内容(抜粋)

- 取組みと振り返り、そして反省ととても勉強になりました。月案などの書き方で、振り返りの際の赤ペン、青ペンなど参考にしたい。
- 小学校への接続は小学化することではないこと。子どもたちの声を拾い活動にいかすこと。幼児期の今しかできない経験ができること月案、週案を活きたものにする。職員間で可視化できることなどたくさん参考になりました。
- 「子どもの声を沢山拾うこと」「職員が聞く姿勢」など保育者としてのあり方、子どもが主体であることの意味に気づかされました。とても勉強になりました。
- 子どもの姿から、まず自分達の保育をふり返るとのこと。それに向かい保育者全体で共通理解して進めていくことが大切だと改めて思いました。
- 「ちょっと見に行く」気軽な交流の積み重ねが接続につながるということ。子どもの言葉を取り入れた掲示物(小学校の施設)。
- 小学校に連携の取り方も大変参考になりました。”小学校コーナー”の写真掲示、真似させていただきます。
- 年長児だけではなく、年少児、年中児といった他の学年でも10の姿を意識していくことで、年長児までの成長につながるという点がとても参考になりました。新しい視点だったのですぐに取り入れられるところは取り入れて保育に力を入れていきたいです。
- できばえを重視することなく、子どもの意見を尊重することがとても重要であることをしっかりと取組みの中に反映させていることが参考になりました。
- 小学校化しない為の取組み、振り返りが発表の中で具体的にあげられていて、とてもわかりやすかった。コーディネーターの先生からのアドバイスが発表の中でも聞いていてどうすればと思うところに入っていたのでわかりやすかった。

5 研修会全体に対する意見・感想(抜粋)

- 他園の取組みを知ることが出来てよかった。幼保小、行政が集まる場が増えていくとよいと思う。
- やはり第一子のお子さんが就学する時はとても不安な方が多いので、小学校の校長先生のお話を聞くことができ保護者に伝えたり答えることもできるので良かったです。
- 先生による発表が大変分かりやすく、子どもたちの変化も分かり、これぞ保育の良さだと改めて実感しました。自園でも子どもの対話を意識していて、発表にもあったような悩みと常に向き合っています。今回見させていただいた歌の時間やドッジボールでの指導でも、こういった保育者の関わり方が子どもたちの育ちにつながるのではと考えます。